

令和7年度 芸術資源活用プロジェクト
採択プロジェクト一覧

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
「負債としての芸術作品」とならないために ——美術大学教育における作品管理の課題と提案	久保田荻須智広 (東京藝術大学大学院美術研究科 美術専攻版画第一研究室 博士課程2年)
プロジェクトの概要	
本プロジェクトは、東京藝術大学大学美術館を事例に、作品の収蔵・管理に関する課題を明らかにし、芸術実践の観点に美術大学教育の視点を加え、持続可能な運用方法を提案することを目的とする。在学生・卒業生・教員へのリサーチや大学美術館の収蔵方針の調査を通じて、作品制作後の管理体制における現状や課題を検討し、論文および展覧会を通じて研究成果を発信する。	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
クラフト運動の研究-磯矢阿伎良とその思想を中心に	泉山真悠 (東京藝術大学大学美術館 学芸研究員)
プロジェクトの概要	
クラフト運動とは、戦後日本において工芸家とデザイナーが「手仕事」と「近代的デザイン」の融合を目指した活動の総称とされる。本プロジェクトは、漆芸分野におけるクラフト運動の活動を知る一助として、漆芸家・磯矢阿伎良（東京藝術大学美術学部元教授）らが創設したU・C（ウルシ・クラフト）体の活動に注目し、作品調査、工房調査を実施する。これにより作品の造形と思想を考察し、クラフト運動と本学との関連性を検討する。	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
東京藝術大学と人体教育 ～美術解剖学研究室所蔵の標本をもとに～	川目七生 (東京藝術大学大学院美術研究科 美術専攻 美術解剖学研究室 博士課程2年)
プロジェクトの概要	
本プロジェクトは、東京藝術大学美術解剖学研究室に現存する人体模型・標本の来歴や詳細を調査し、それらが本学の人体学習講義にどのように関わっていたのかを、当時の授業資料などと照らし合わせて解明することを目的とする。日本の美術界における人体教育の変遷の歴史を、これまでとは違った角度で示すことを可能にしていくとともに、研究・実技問わず、学内での積極的な標本の活用ができる環境も合わせて検討していく。	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
芸術学科教員によるアッシジ調査資料の整理と保護	平井彩可 (東京藝術大学美術学部 非常勤講師)
プロジェクトの概要	
本プロジェクトは、1970年代から1984年にかけて芸術学科教員により行われたアッシジの聖フランチェスコ聖堂内壁画調査の成果を整理し、保護することを目的とする。記録資料は芸術学科各研究室にて保管されてきたが、教員の入れ替わり等によって散逸の危機にある。これらは、1997年9月のウンブリア・マルケ大地震で甚大な被害を受ける前の姿をおさめた大変貴重な資料であるため、整理・データ化し、保護・保管状況の改善につなげる。	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
中丸精十郎「天使像」(モザイク作品)の研究調査を通して、日本モザイク史を明らかにする。	鈴木敦夫 (東京藝術大学美術学部・大学院美術研究科 絵画科油画専攻 壁画研究室 テクニカルインストラクター)
プロジェクトの概要	
長い歴史を持つ「モザイク」は人類の歴史や都市文明と共に発展し、美術分野において重要な位置付けと言える。日本においては明治維新以降に建築装飾の一技法として導入され始め、今日では芸術表現の一つとして大学講座にも取り入れられている。大学美術館が所蔵する、中丸清十郎作「天使像」(モザイク作品)の状態調査・文献調査を通して、日本近代モザイクの文脈を明らかにし、美術的価値・文化的価値の向上を図る。	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
下総皖一による「新音楽」の理論・実践の検証 ——東京藝術大学における音楽的モダニズムの系譜	千葉豊 (東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻（音楽学） 博士課程3年)
プロジェクトの概要	
下総は、旧制東京音楽学校を首席卒業し、その後同校の卒業生として初めて東京藝術大学音楽学部長となった作曲家である。彼は、「新音楽 Neue Musik」の代表者ヒンデミットの音楽理論・実践の普及を通じて、日本における音楽的モダニズムの基盤構築に寄与した。本プロジェクトでは、国内外の関連資料の調査により本学の芸術資源をグローバルな観点から有効活用し、その成果を学内で開催予定のシンポジウムで発表する。	

※ 所属等は2025年4月現在のもの